

米カ州立大  
サンノゼ校

# 京都の大学で初授業

## 宇治国際交流C、日本文化教える

宇治市出身 青木氏が積極サポート

京都市内の大学で授業を行っている米カリフォルニア州立大サンノゼ校の学生10人と宇治国際交流クラブ（森本町子代表）の会員と



【習字に挑戦するアメリカの学生ら】

の文化交流会が18日、宇治公民館が開かれ、約70人でにぎわった。同校は州立大学のなかでは最も歴史のある大学で来年、創立150周年を迎えることを

契機に日本文化を学ぶ学生を募り、京都の大学で授業を行って3単位を与える初の試みを今月6日から約2週間の日程で実践してきた。今回、宇治市内の小



【おにぎりを握って日本文化の一端に触れる】

中高出身の青木一芳氏（35）が代表取締役を務める「キャンパスゲート インク」（本社：カリフォルニア、01年設立）が宇治市内のホームステイ先の幹旋、プロダ

ラム企画など積極的にサポートした。同社は人材育成をベースに国際交流を目指しており、10年以上の米国調査を基に構築したネットワークを活用。米大学との共同プロ

単に学生を海外に留学させるカリキュラムではなく、調査時などに構築したIT企業のメッカであるシリコンバレーの企業との独自ネットワークを生かして、その企業へのインターンシップや企業視察などを展開しており、語学力を身に付けて何がしたいのかを明確に持っている人のモチベーションを上げ、日本人の海外進出を強力にサポート。もちろん、学生だけでなく、日本企業の経営者や若い人々の視察も手助けしているほか、ネットなど夢や希望を失っている人へ新しい環境を提供する事業にも取り組んでいる。

米大学との共同プロ

グラムの企画・運営を手掛けたのは初めてだったが、外国人の日本就職支援を行うなど、海外で新しいビジネスを始めようとしている人も支援している。同校の稲葉生一郎準教授も「能、狂言、俳句、華道、茶道、禅、酒、祇園祭などが有意義に学べた。青木さんのおかげで成功した」と初の試みに達成感をにじませた。この日の交流会は琴と尺八演奏でスタートした。学生らが書道、折り紙、琴などの日本文化に挑んで悪戦苦闘。昼食ではおにぎりを握ったが、なかなか上手に形が整わずに苦笑い連発も：和やかな雰囲気で行った。